

見学実習

[実習] 第2学年 後期 必修 1単位

【担当者名】○永見慎輔：nagami@hoku-iryo-u.ac.jp

才川悦子 下村敦司 中川賀嗣 榊原健一 橋本竜作 鈴木瑞恵 福田真二
飯泉智子 葛西聡子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 若松千裕 辻村礼央奈

【概要】

見学実習は、これまで学んだ基礎および専門科目をもとに、言語聴覚療法の臨床に必要な情報収集、検査・訓練・行動観察の実際を見学し、臨床における考え方を知り、それを通じて医療人としての信条および習慣を修得する。実習期間中は病院または施設で臨床実習指導者の下で実習を行う。

【学修目標】

言語聴覚療法の実際を観察・体験することで、対象者理解と専門職の役割を学び、次段階の実習に向けた基礎的技能を修得する。

1. 言語聴覚士の職業倫理（守秘義務等）を遵守した行動ができる。
2. 言語聴覚障害がある人の抱える問題とその背景について説明できる。
3. 言語聴覚士の具体的な業務内容や役割を説明できる。
4. 見学施設の特性と、地域における役割について説明できる。
5. 対象児・者および家族等の人権を尊重し、指導者の助言のもとで適切なコミュニケーションを取ることができる。
6. 臨床現場の観察を通じて学内での既習知識と臨床を関連づけ、適切な用語を用いて事実と解釈を区別した記録ができる。
7. 実習での学びを振り返り、自己の課題を抽出することで次段階の実習に向けた準備ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	事前指導・準備	「実習の手引き」および学内オリエンテーションを通じて、実習の目的、行動規範、守秘義務・個人情報保護、感染対策、提出物等を確認し、実習の準備を行う。	担当教員
	見学実習（臨床観察）	医療職業人に求められる基本的態度および行動を学ぶ。担当患者だけでなく多様な対象者・場面を観察する。観察した事象は見たまま・聞いたままに適切な用語を用いて記録し、事実と解釈（意見）を区別して記載する。	臨床実習指導者（全担当教員）
	情報収集・多職種連携の理解（見学）	評価に際して他職種から得るべき情報の種類と収集方法について学ぶ。言語聴覚士がチーム医療・多職種連携の中で果たす役割（情報共有、カンファレンス、記録・報告等）を観察し理解する。	臨床実習指導者（全担当教員）
	記録・振り返り	実習日誌・見学実習レポートを作成する。誤字・脱字がなく簡潔かつ適切に文章表現をする。個人情報の記載について匿名性などに留意した対応をする。	担当教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

実習先評価（50%）と成果物（実習日誌、見学実習レポート、各種提出物）を含めた総合的な評価（50%）を実施する。

【教科書】

「実習の手引き」・北海道医療大学言語聴覚療法学科 編

【参考書】

適宜、紹介する。

【学修の準備】

「実習の手引き」をよく理解し、実習の準備を行うこと。守秘義務・個人情報保護、感染対策、見学時のマナー、記録の方法

(事実 / 解釈の区別) を事前に確認する。

【【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】】

DP3 . リハビリテーションの概念を深く理解し、保健・医療・福祉をはじめ多様な分野の専門職種と連携・協働し、対象者中心のチームアプローチを実践する能力を身につけている。v

【実務経験】

永見慎輔 鈴木瑞恵 飯泉智子 葛西聡子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 若松千裕 辻村礼央奈（言語聴覚士）
才川悦子 中川賀嗣（医師）
橋本竜作（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関等での経験を活かし、見学実習における言語聴覚士としての役割理解、臨床観察および医療職業人としての態度の形成を目指す教育を行う（言語聴覚士、医師、公認心理師）。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している